

系婦。他殿即光元降参ふ随ふず角館に落行同六
日八柳城を攻め主角館に落行小野寺遠江守戸次北
定從騷動し幕下舊代の諸士二の分として我居城小
指籠る。を聞て文明十八年三月十六日河陽川に
出陳小指の城を攻め過清江は其夜着後し馳の勢を
待如小館大膳逆参ふ小野寺七郎が陳に押参ふ令
我小野寺方佐平八郎とし大別の者同志大隅
西人大小教ふ其後益充が曰臣守江丹後堀主永保
田折之丞お井玄蕃款に内通是を大膳が伯父戸次
彦九郎が居城中原江聞る則大膳充が方は彦九郎

志しせたり是小依る同六二日の夜半小館自ら折向て
中原堀原田お井小野寺方佐藤市左衛門其外五十余
人亦取志し其大敵を引清ふ。維く三月十八日城小
火を越市兵隊を亦連中原に落行かれ城小指ふ
り。小野寺の多勢を以て小勢めて戸次彦九郎小
館大膳屯市兵隊大小戦ひ参るが後詰の勢なく小
指一難く思ひ城小火を越角館に落行参るの如く。く
北浦の莊むあり是に依て小野寺方に降参参る
参るより。後代に諸士後室小見見中し降参承引是
るく平九郎殿十三歳あり長成の後室我を恨んも口